

柳澤大臣の早期辞任を求める要望書

厚生労働大臣 柳澤伯夫 様

2007年2月8日

柳澤大臣、潔く辞任をしてください。

私たちは大阪府豊中市男女共同参画センターすてっぷの元館長三井マリ子さんが提訴した「館長雇止め・バックラッシュ裁判」を支援する市民グループです。

1月27日、松江市内で開かれた自民党県議の決起集会の講演で、少子化問題にふれたあなたが、女性について「産む機械、装置の数は決まっているから、あとは一人頭で頑張ってもらえない」などと発言したことを知りました。

「産めよ増やせよ国のため」の下、戦争に駆り立てて行った戦前の日本を思い出させるような発言に、私たちは驚きあきれるとともに、憤りを抑えきれません。

その後あなたは国会で謝罪をしましたが、謝罪をしても、女性蔑視発言をしたという事実は消えません。いや、それよりも「反省しています」で済むようなことではないのです。

あなたは、男女がともに子どもを安心して生み・育てることのできる環境づくりをすること、そして女性が働きやすい労働環境をつくることなどを主要施策とする厚生労働省の最高責任者です。厚生労働省は、女性が安心して子どもを産み育てながら働き続けられる社会をつくるため、あらゆる方策を考え実行してゆくべき責務を担っています。

あなたの発言は、産むか産まないか、何人産むか、いつ産むかは当事者である女性に選択権があるという「リプロダクティブ・ライツ(女性の性と生殖の自己決定権)」の精神を踏みにじるものです。自己決定権以前の社会に置かれている女性が多い日本の現状を考えるなら、ことはさらに重大です。すなわち、ここ数年、女性たちの多くは、非正規雇用へと追いやられ、女性をとりまく経済はますます不安定に陥り、子どもをもっと産もうという選択をすることを阻んでいるのです。

こうした深刻な現状を抜本的に解決すべき省のトップのポストは、「女性は産む機械／装置」などと公言した人物に最もふさわしくないポストだと私たちは考えます。ただちに辞任すべきです。

あなたの女性蔑視発言になぜ私たちがこれほど怒っているか。もうひとつ理由があります。それはひとりあなたが不用意に言ってしまっただけでなく、かなり多くの日本の男性議員の本音ではないかという危惧を覚えるからです。

私たちは、裁判支援の中で、男性議員があなたと似たような発言をしているのを知りました。たとえば、大阪府豊中市の北川悟司議員は、こう発言しています(毎日TV「VOICE」より)。

「オスとメス、…男性は小さいうちから男性の自覚を、女性も自覚を育てていくべき…。
もっともっと女性は家庭を子どもを大切に、そして、いい子どもを作って下さい」

同じく大阪選出の西村真悟議員は、こう言っています(同上)。

「女性が家庭を維持するために大きな役割を担っている。これ当たり前じゃない。私、あえて申しますよ。世の中で一番素晴らしいことは、愛する子どもを育てることですよ。このことがなかったら、社会自体も存続しません。女性が安心して出来るよう、男はある意味、命を捨てても働くということ」

国会、地方議会を問わず、このような考えの議員がまだまだおり、子どもを産めない女性たちの心を傷つけ、働く女性たちの足を引っ張っています。「女性は産む機械」などと発言した厚生労働大臣がその椅子に居座っているなら、こうした男性議員の暴言に免罪符を与えることにつながりかねません。

ご承知とは思いますが、子どもを産む女性が増えてきている国は女性が仕事をしやすい男女平等の雇用政策をとっている国です。ノルウェーをはじめ北欧諸国、フランスも今増えてきています。女性の人権を認め、女性の労働力を生かす国こそ、これからの国際社会の平和と持続可能な環境に貢献する国になります。

最後に申し上げます。柳澤大臣1日も早く、潔く辞任してください。

館長雇止め・バックラッシュ裁判を支援する会(略称ファイトバックの会)
代表 上田美江・世話人有志一同